

2023年冬の北海道東部におけるハクトウワシの記録

菅原 弘貴^{*1}・森元 愛和^{*2}

The record of a Bald Eagle *Haliaeetus leucocephalus* in winter 2023 in Eastern Hokkaido

Hiroki Sugawara^{*1} and Yoshikazu Morimoto^{*2}

はじめに

ハクトウワシ *Haliaeetus leucocephalus* (Linnaeus, 1766) は北米大陸を中心に分布し、日本国内では3例しか記録されていない稀なワシ類である。国内における最初の記録は、2001年7月25日の国後島での1個体の記録である(Skopets & Dorogoy 2002)。第二の記録は、2020年1月27日の北海道野付半島における1個体(4年目:亜成鳥)の記録である(藤井・中村 2022)。この個体は道東地方で越冬し、風連湖、厚岸町、釧路湿原までの広範囲にわたって、2020年3月中旬まで目撃・撮影された(藤井・中村 2022)。第三の記録は、その翌年の2021年1月26日から2月下旬にかけて、根室半島周辺で成鳥が発見・撮影されたもので、頭部の模様、年齢の整合性から同一個体と推測されている(藤井 2021)。

筆者は2022年以降の目撃情報を見出せていないが、2023年1月26日に再び北海道東部において本種を確認したため、ここに報告する。

観察状況

2023年1月26日 午前9時~11時30分に、北海道東部に位置する尾幌川の上流部(凍結)において、山の斜面林の広葉樹にとまっている1個体を発見した(Fig. 1)。本個体は終始休息しており、ときおりハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* Wagler, 1827、ハシボソガラス *C. corone* Linnaeus, 1758 が接近すると体の向きを変えたが、観察時間中に飛翔することはなかった。

本個体は黄色く大きな嘴をもち、腹面および翼を含む背面が黒味を帯びた褐色で、白色の頭部・尾との間に明瞭な色の境界が存在することから、ハクトウワシに同定された。また、頭部・尾・嘴に黒色部を含まないこと、虹彩が淡色であることから、成鳥と考えられた(McCollough 1989)。雌雄や亜種の判別はできなかった。

2020・2021年の個体との関係

ハクトウワシが北海道で確認された背景の一つとして、近年、北アメリカにおけるハクトウワシの保護活動の

結果、生息数が増えていること(U.S. Fish and Wildlife Service 2020)、カムチャツカや千島でハクトウワシが記録されるようになってきていること(Lobkov & Kalinov 2015, Lobkov et al. 2017)が考えられる。

ハクトウワシには同一の越冬地を継続して利用する個体が知られ(Harmata & Stahlecker 1993)、藤井・中村(2022)はその越冬を報告した際、今後も飛来し続ける可能性を述べていた。本種の飛来が極めて珍しく、少なくとも2年間は連続して飛来したことや、今回と過去の確認位置を踏まえれば、本個体は2020・2021年の個体と同一である可能性が高い。

一方、2020・2021年には、氷下待網漁の漁場付近で他のワシ類に混じって目撃されることが多く、他のワシ類から空中で略奪していたという点(藤井 2021)において、今回の観察状況とは異なっている。今回観察された地域では、エゾシカの投棄死体をしばしば確認しており、それを利用するオジロワシやオオワシが存在する(著者、個人的な観察)。シカの死体は、北米における冬期のハクトウワシの重要な食物となっているため(Ewins & Andress 1995; Grubb & Lopez 2000)、本個体が山際に現れた背景は、利用可能なシカ肉の豊富さにあった可能性がある。2020・2021年の個体と同一であるならば、記録のなかった2022年にも飛来し、今回同様に目撃されにくい山林に滞在していたとも考えられ、今後も飛来が続く可能性がある。

謝辞

本報告をまとめるにあたり、藤巻裕蔵氏には多くの助言をいただきました。ここに記し、ご協力に感謝を申し上げます。

引用文献

Ewins, P. J. & Andress, R. A. 1995. The diet of bald eagles, *Haliaeetus leucocephalus*, wintering in the lower Great Lakes Basin, 1987–1995. *Canadian Field Naturalist*, 109: 418–425.

*1 北海道空知郡南幌町西町1丁目7-3

*2 パシフィックコンサルタンツ株式会社 Pacific Consultants Co.,Ltd.

藤井薫. 2021. 野付湾、風連湖などに2年連続飛来したハクトウワシ. 北海道野鳥だより, 204: 7.

藤井薫・中村神騎. 2022. 北海道東部におけるハクトウワシ *Haliaeetus leucocephalus* の越冬記録. 日本鳥学会誌 71: 45–49.

Grubb, T. G. & Lopez, R. G. 2000. Food habits of Bald Eagles wintering in northern Arizona. *Journal of Raptor Research* 34: 287–292.

Harmata, A. R. & Stahlecker, D. W. 1993. Fidelity of Migrant Bald Eagles to Wintering Grounds in Southern Colorado and Northern New Mexico. *Journal of Field Ornithology* 64: 129–292. (in Spanish)

McCullough, M. A. 1989. Molting sequence and aging of Bald Eagles. *Wilson Bulletin* 101: 1–10.

Lobkov E G Kalinov E G (2015) The new observation of the bald eagle *Haliaeetus leucocephalus* in

Kamchatka: the examination of some photos and some aspects of the analysis of this species records in Asia. *Russian Journal of Ornithology* 24, Express-issue (1145): 1795-1798 .(In Russian)

Lobkov E G, Lakomov S P & Marshuk S P (2017) Vagrant young bald eagle *Haliaeetus leucocephalus* on Paramushir Island (Northern Kurile Islands). *Russian Journal of Ornithology* 26, Express-issue (1450):2149 -2154 .(In Russian)

McCullough, M. A. 1989. Molting sequence and aging of Bald Eagles. *Wilson Bulletin* 101: 1–10.

U.S. Fish and Wildlife Service. 2020. Final Report: Bald Eagle Population Size: 2020 Update. U.S. Fish and Wildlife Service, Division of Migratory Bird Management, Washington, D.C. U.S.A.



Fig.1 A Bald Eagle *Haliaeetus leucocephalus* photographed on 17th June 2023 in Eastern Hokkaido. (photo by H. Sugawara)